

小笠原為日記

下

和書門			
三六四一八	函	號	類
三架	函	號	類
三册	架	函	類

內閣文庫		
三七七	函	架
三六四一八	函	架
三册	架	函
和書	類	號

內閣文庫		
番號	和 36418	
冊數	3 (3)	
函號	177	997





八月廿一日 西園寺公望 謹啓

セトボシ

對詔書

一 應務控早

一 甚方是痛之如何

一 遊之腫しお増ぬ夜痛あり言今朝より

痛烈な難治は

あつて定る難治は

一 若し柱竹之節 拓右極痛、羅之痛、難治は

右方之海言路の希知故

代科の中流言物及建中上は其を言く且前上と通

言く誰に不慮とも難名を言く言く右代科

不測載し言く私年名、言く言く言く功載りたし

此方より利を拘り中流言物言く言く言く不解説

右山と解く言く右代科の候家言く言く言く言く

言く言く言く言く言く言く言く言く言く言く

言く言く言く言く言く言く言く言く言く言く

言く言く言く言く言く言く言く言く言く言く

後記重し扱ふ候に
後記重し扱ふ候に
後記重し扱ふ候に

一 右之候至日中流言物上は日午迄府當指申取締

向し言物歸言物に存言物言物言物代科由候申

右綱の言物既言物言物言物代科載言物言物言物

右言物言物言物言物言物言物言物言物言物

言物言物言物言物言物言物言物言物言物

其方之海言路の希知故

不測載し言く私年名、言く言く言く功載りたし

此方より利を拘り中流言物言く言く言く不解説

節之海心松波一夜い

庭初夜時風重い也傍に卯を重い言路有法一

之後夜時止松波の波い

右松之葉より多く松皮を剥ぎ重い言路有法一

中松の通唯今出開重い言路有法一

右代料より言路有法一

下り言路有法一

右方丸者言路有法一

比ト上止七地國人の言路有法一

言路有法一

皇氏の子に如く政府の親に如く言路有法一

言路有法一

右松の葉より言路有法一

右松の葉い

右松の葉より言路有法一

右松の葉い

右松の葉より言路有法一

右代料より言路有法一

右松の葉より言路有法一

右松の葉より言路有法一

一 諸取らぬに收及下着返却波し其方他配
如何に有之於右事情御子に波の

一 此正に候に取及波し如何に御子に波の如何に

一 取及に候に取及波し

一 諸取らぬに理合無きし波に親方安ら候事且家督代
料に取及に取及波し其方他配に
い波に諸取らぬに代料に波し右向候に波し其方他配に
之い

一 此日中書取らぬに養子に波の如何に波の

一 右に其方他配に養子に波の食料に波の如何に波の

一 義事人に取及に波の如何に波の

一 取及に右弟に代料に波の用事に波の如何に波の

一 御子に

一 其方他配に有之軍艦に取及に波の如何に波の

一 高取中書に取及に波の如何に波の

一 中取取らぬに取及に波の如何に波の

一 御子に取及に波の如何に波の

一 取及に波の如何に波の

一 右に其方他配に取及に波の如何に波の

一 取及に波の如何に波の

政居の治も何れも後継計りて居るに似たり

四方より移りて居るに似たり
智風も遠くはるに似たり
五部居も成りて居るに似たり
し節も成りて居るに似たり

一 由是より後継計りて居るに似たり

之方平同より字授おら入候に似たり

一 昔は年止も字授おら入候に似たり

一 之方と職業を字の履を扱ひに似たり

一 年止も河平に似たり

千八百十一年一月廿七日を以て

之後を河平に似たり

一 河平に似たり

一 河平に似たり

一 河平に似たり

一 河平に似たり

一 河平に似たり

一 河平に似たり

一 河平に似たり

一 河平に似たり

一 腸兒以未如何言者其雜事也

一 夫之言及人少至其有及之世務深可謂其苦心
之改也

一 雖有以言者及之其有及之世務深可謂其苦心

一 病者言其品後事者之體也念色心細也其心

一 此節名也其體深也其心也夫之其心也其心也

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言其言

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言

一 之後其言其言其言其言其言其言其言其言

右の如く
二退教

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

甲二月十日
中津浦

著人ト三ツツト

新法書

一 應括抄ノ事

初と面有消
建の情
居の
故

一 右の如く
修治
中

一 以方より之系之毒之故い

以時多来幸端始と括括決り利十は通了列候

美濃紙の始元花浸之括免ト三三止りヨカシ

之直人ら

一 石京日午政府分より第一回配定下候い

一 難之功歎候い

海濱も下扇子持込本端端而投列候由人若之組

持口一葉元滞一不白紙十尺節日提類列候由人若之

提類入人若之元

一 右物志元介の巻い

一 難之功歎候い

一 青島治高い巻い向端維令の所滞止候一 志の巻い

いた親列書お波の巻い得とお知因のお巻い

波車之船のお波い港親列是又書い波巻い巻細

之依之送列下候い

以時親列書港親列お波

一 七一お止介之書快つ覽候一 以介

一 懐之巻い

一 右書面申之思有之巻之成后は為一 伴首端候

右指す所及有るは、妙に同地本を指す

一 〇〇〇〇の抄本に、家名を載せしもの、書中用紙
は、公家御用紙に似たり。此指す所、後年、乃ち私に賣
渡し、其抄本を成す

一 事細事、此は是迄所指す事、古物に賣すは、
併、後年、之れも幅子、依れ、其後、有る、右に
南無宗 居

一 あり、港別、其指す所、及、右指す所、後年、幅子、
〇〇〇〇

一 〇〇〇〇の抄本に、家名を載せしもの、書中用紙

一 〇〇〇〇の抄本に、家名を載せしもの、書中用紙

〇〇〇〇の抄本に、家名を載せしもの、書中用紙

一 〇〇〇〇の抄本に、家名を載せしもの、書中用紙

一 〇〇〇〇の抄本に、家名を載せしもの、書中用紙

一 〇〇〇〇の抄本に、家名を載せしもの、書中用紙

一 〇〇〇〇の抄本に、家名を載せしもの、書中用紙

一 〇〇〇〇の抄本に、家名を載せしもの、書中用紙

〇〇〇〇の抄本に、家名を載せしもの、書中用紙

一 美人の歌人伝記

一 新色は有りてしと常人の無利加之属籍
お双房のそ余三人カチ力人由たはとを死に起る
之指与年山着クイ一私ら高道中下一滞流深居如
舞籠私ら收取う下りし治に修居治一居居之度
舞籠私治年一命右私水之元名及に治治
此居お働は難信名二年一第修私治一治治
江紙の伝由たは

一 舞籠人伝記

一 持七人の由たはしは治に江紙のよ治由治一

このも有り

一 高麗人強海記

一 九人の強海記

一 九人の内書数人記

一 四書(内書)二有る

一 此方の羅正の長女くおく又有り

一 六人の内書(内書)二有る

一 五人の内書(内書)二有る

一 七人の内書(内書)二有る

一 男子の内書

一 左伝に由る

一 由る人 (inonaka)

一 父母を重んずる人 (同前)

一 丁に丁事有る人

一 有る人

一 何れの人

一 之語を以て老をせよ (一) 事 (同前)

一 乙未の年久遠津浪の仰青島に何れの人

一 叔父之語は後世の事と云ふ (一) 事 (同前)
いふと云ふ事と云ふ事 (一) 事 (同前)

一 乙未の年久遠津浪の仰青島に何れの人

一 乙未の年久遠津浪の仰青島に何れの人

一 乙未の年久遠津浪の仰青島に何れの人

一 時 (一) 事 (同前)

一 高松を以て (一) 事 (同前)

一 乙未の年久遠津浪の仰青島に何れの人

一 乙未の年久遠津浪の仰青島に何れの人

一 乙未の年久遠津浪の仰青島に何れの人

一 乙未の年久遠津浪の仰青島に何れの人

一 乙未の年久遠津浪の仰青島に何れの人

一 時常と交りて雲が波の流すもさうきく多
く秋多し中た

一 四月の末に遠く大見の山ありて中と常と常と常と常と常と

一 主常と常と常と常と常と常と常と常と常と常と
満湖中た

一 主常と常と常と常と常と常と常と常と常と常と

一 主常と常と常と常と常と常と常と常と常と常と
有る50物中

一 常と常と常と常と常と常と常と常と常と常と

一 常と常と常と常と常と常と常と常と常と常と

一 小船を載せし橋を河に架け有るは

一 東方に巨な新し山ありて

一 右の門場廣之船附場河にありて

一 中上右良之橋ありて南東に方と方と有るは

一 右船の場中遠く上深場ありて南東に方と方と有るは

一 右高の對しに橋ありて北にありて

中た

一 右の門場廣之船附場河にありて

一 右の門場廣之船附場河にありて

一 橋中一最長き山ありて

一 易易伝

一 中書省の所を職して

一 父と書院治はたはる初と知るか承家と書と地

居

一 西親と治子治一病家

一 西親と治子治一病家

一 日平人由書と政通年々々々々々々々々々々々

一 治と中書省日平治と教いと容易と書いと

一 教所あるいと治と書いと

一 西親と治子治一病家

一 治子治

一 承家と治子治一病家

一 治子

一 西親と治子治一病家

石子年

二月廿七日 小室宗高の母法成津村

英人トニシテ

對話書

一 應務抄字

何七仕儀と申すは海軍の御志は婦多人致来之清島波島
活にお成結の叩日志之ヤ一山美葉同お教上之夜七留
重之方と申すは海軍の御志は婦多人致来之清島波島
此見七官階にお海軍の御志は婦多人致来之清島波島

一 苗年志例年今流様由極守時命一お流し奉

一 以今く力と懸托有るは流之ア一止多人おらん運
お流し奉るは海軍の御志は婦多人致来之清島波島
あつては

一 至利志配向一入重し通る苗所遊見七お流し奉
明く多くと運船つるお流し奉るは海軍の御志は婦多人致来之清島波島
くお流し奉る

一 お流し奉るは海軍の御志は婦多人致来之清島波島

一 了しに候は、御志は海軍の御志は婦多人致来之清島波島
御志は海軍の御志は婦多人致来之清島波島

一 お流し奉るは海軍の御志は婦多人致来之清島波島

由と進み及中宮後上と美言の後如くし
通る者人々皆在治一也

治后宮派の事石意違くするは治の事
源雅治一也

一 皆時之事は治と治と治と治と

一 ヤーと一 事も時治と時治と

治は國旅治一 治と治と治と

一 事同く事一

一 治中一 治と治と治と治と

治の事一 治と治と治と治と

一 治と治と治と治と治と

一 治と治と治と治と治と

一 治と治と治と治と治と

一 治と治と治と治と治と

一 治と治と治と治と治と

一 治と治と治と治と治と

一 事同く事一

一 治と治と治と治と治と

一 治と治と治と治と治と

一 治と治と治と治と治と

極重の義に有るに

正徳中記の事なり

一 和譜書面之字方名判有之に以て彼等死後之字子孫等之
之而持地之有歟

和譜書面

一 祝詞書信書之字は其有る月力力人者亦其年

月力力之字に別紙を添付せし可成

和譜書面

一 其間中少くも如く書譜并七十一世に於て其後之語を以て
其間中少くも如く書譜并七十一世に於て其後之語を以て

三月七十一世に於て其後之語を以て

其間中少くも如く書譜并七十一世に於て其後之語を以て

一 若くは書譜之字は其有る月力力人者亦其年

月力力之字に別紙を添付せし可成

一 和譜書面之字方名判有之に以て彼等死後之字子孫等之

和譜書面

一 和譜書面之字方名判有之に以て彼等死後之字子孫等之

和譜書面

和譜書面

和譜書面

内港 戸港 小村 小港 南浦 西浦 乳房心
双光山

右へ通書舟の路 右へ通書舟の路 右へ通書舟の路

河老地岡の東に寄る右の河老村 巨細池の右に在る河老村

右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

一 右の河老村の東に在る河老村 一 右の河老村の東に在る河老村

幕と前付の種あま入のてん空透海下まとい

一 只今御座の場前以後洋崎打まとい幕と脇山を

あまのい山下のうら引替つてい

一 たら湯をそゆる海空地と名河治一い

一 樹木植込波海は

あまのい山下のうら引替つてい

湯をそゆる海空地と名河治一い

一 持心とまうをせい

一 脇山をそゆる海空地と名河治一い

あまのい山下のうら引替つてい

一 明朝見ま可波ちまのてん空透海下まとい

あまのい山下のうら引替つてい

あまのい山下のうら引替つてい

あまのい山下のうら引替つてい

あまのい山下のうら引替つてい

一 一 應接抄中

一日は方々を廻りて東の市杭馬建の如く行遠
有るいふ今白粉を雨海干物行有る地景色極界
杭馬建——いふは松本に在り

一 上 下 弟 知 姓

セリおしきる三日く申候有るいふ子建候後を慶候保病後
を路へ知を治指別古候いふ有るい

一 上 下 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓

一 上 下 弟 知 姓

一 上 下 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓

一 上 下 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓

後 雜 抄 歟

一 上 下 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓

一 上 下 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓
一 上 下 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓
一 上 下 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓

一 上 下 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓

一 上 下 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓

一 上 下 弟 知 姓

一 上 下 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓
一 上 下 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓
一 上 下 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓 弟 知 姓

一 ^{トイボシ} 一 ^{トイボシ} 一 我々當時の方向居住する苗地内中

五成明地一帯一山中盛産するを著し之を以て

いふとも此苗地内中一帯一苗地をいふ

苗地也

一 夫々親の書に古有るの通一開墾を祖伝の苗地

を部地内中一苗地をいふ地内中一苗地をいふ

一 苗地内中一苗地をいふ

一 ^{トイボシ} 一 ^{トイボシ} 一 苗地内中一苗地をいふ

一 苗地内中一苗地をいふ

一 苗地内中一苗地をいふ

苗地内中一苗地をいふ

一 ^{トイボシ} 一 ^{トイボシ} 一 苗地内中一苗地をいふ

一 苗地内中一苗地をいふ

一 苗地内中一苗地をいふ

一 苗地内中一苗地をいふ

一 苗地内中一苗地をいふ

一 苗地内中一苗地をいふ

一 苗地内中一苗地をいふ

一 苗地内中一苗地をいふ

一 苗地内中一苗地をいふ

尾流下り乃ち後由尾流下り

一 兼知使

是今日ヨ一止此所をいふ所一ありそるりし居りし

一 兼知使

之り加のト方家勝終天ノ中ノ事候之候言此家組

あり右山中ノ家勝候其有る若し右流方ノ事候

言り候

一 右山中ノ事候其有る若し右流方ノ事候

中ノ事候其有る若し右流方ノ事候

流も七事候其有る若し右流方ノ事候

山中ノ事候其有る若し右流方ノ事候

山中ノ事候其有る若し右流方ノ事候

山中ノ事候其有る若し右流方ノ事候

一 流も七事候其有る若し右流方ノ事候

流も七事候其有る

山中ノ事候其有る若し右流方ノ事候

山中ノ事候其有る

山中ノ事候其有る若し右流方ノ事候

山中ノ事候其有る

一 河ノ外ニ抽樹若草蕨も在り有る地

Vertical text in a cursive script, likely Japanese. The text is written in black ink, with several characters highlighted in red ink. The text is arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left. The characters are somewhat faded and difficult to decipher precisely, but appear to be a form of historical Japanese calligraphy or a specific dialect.

